



幽玄の世界堪能

福山八幡宮 夏恒例の薪能

福山市北吉津町の福山八幡宮で28日夜、夏の恒例の薪能があり、かがり火が照らす舞台上で繰り広げられた幽玄の世界を約千人が堪能した。

午後6時すぎから始まり、喜多流大島能楽堂(福山市)の能楽師大島政允さんらが出演した。メインの能「八島」は、源平合戦で活躍し、兄の源頼朝と不仲になって奥州に逃れ自害した義経の霊が主人公。約1時間にわたり、屋島での華々しい武功を気迫のこもった舞で表現し、観客を魅了した。狂言・金を

藤左衛門」のほか、能の一部だけを上演する仕舞、舞囃子も披露された。

毎年訪れている同市本庄町中、堀隆士さん(82)は「暗闇の中での

上演は幻想的。悲運をたどった義経の情念もひしひしと伝わってきた」と話していた。

福山八幡宮の薪能は歴代福山藩主が能を奉納したのちにちなみ、1

986年から行われている。(原英昭)

10/07/30
山陽新聞